

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2397600012		
法人名	社会福祉法人 嘉祥福祉会		
事業所名	グループホーム第二あま恵寿荘 (すみれ)		
所在地	愛知県あま市二ツ寺三本松82番地		
自己評価作成日	平成26年10月 4日	評価結果市町村受理日	平成27年 2月 6日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kai.gokensaku.jp/23/index.php?action=kouhvu_detail_2014_022_kani=true&amp;JiyosyoCd=2397600012-00&amp;PrefCd=23&amp;VersionCd=022">http://www.kai.gokensaku.jp/23/index.php?action=kouhvu_detail_2014_022_kani=true&amp;JiyosyoCd=2397600012-00&amp;PrefCd=23&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 中部評価センター		
所在地	愛知県名古屋市長区左京山104番地 加福ビル左京山1F		
訪問調査日	平成26年10月22日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ユニット『すみれ』:毎日レクリエーションや体操・リハビリ・口腔体操等を行っている。利用者に合わせて、編み物やジグソーパズル・計算・塗り絵・作品を作る等している。地域のボランティアに毎月来て頂き、一緒にゲームや話をしたり、絵手紙をしたり等している。近隣の小学校との交流も継続して行っており、慰問に来られたり、花等を贈呈して頂いたり等している。花見や地域の敬老会等に外出したり、利用者と一緒におやつを作ったり、近隣の同一法人施設で合同で開催される誕生日会や夏祭り・家族会等の行事にも参加している。利用者の主体性を尊重し、利用者に合わせて役割を持ってもらい、料理や掃除・洗濯等を行って頂けるように声掛け・支援を行い、利用者と家族の関係がよりよくなるように支援している。利用者・家族・職員の間でも良い関係が築けていると思っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホーム開設から4年を迎えホームと共に職員も成長しており、利用者やホーム運営に対し積極的な意見が出るようになった。定期的にユニット間で職員の入れ替えを行っており、全員で利用者の理解をすすめて支援できるよう努力を重ねている。支援の関わり方、介護技術の向上に総力で臨み、毎年着実に自信ある支援を実践し、積極的に利用者本位の介護支援に取り組むに至っている。管理者を中心に職員のチームワークは良好であり、利用者や笑いの絶えない家族のような関係を築いている。同法人の特別養護老人ホームが、グループホームでの暮らしが難しくなった場合、次の棲家の選択肢の一つとして存在するのも利用者や家族にとっての安心となっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	利用者の意思を尊重し、地域の中で普通の生活を送って頂けるように支援するという目標に向けて、各利用者に合った援助方法を各職員が考え、皆で相談しながら、実践するように努力している。	毎月、職員はホーム目標に沿った個人目標を設定し、利用者の普通の生活を継続する支援に取り組んでいる。振り返りとして会議で課題等を話し合い、よりよい介護サービスの提供を目指している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議や広報等で地域の行事等の情報を得て参加するようにしている。市主催の敬老会・福祉祭りに参加し、利用者が作った作品を展示したりしている。ボランティアや近隣小学校との交流を進めている。	毎年恒例の地域の敬老会に職員同行の上、出席をしている。また「福祉まつり」に利用者の貼り絵や人形の作品を出展している。地域の避難訓練にも参加している。	地域住民に知ってもらいたいという管理者の思いを実現するために、近隣の保育園等社会資源への積極的な声掛けに期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議で市役所や地域包括支援センターの職員、民生児童委員、ボランティア、家族等と連携がとれるように話し合い等を行い、施設行事等への参加を呼び掛け、参加して頂いている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、日頃の利用者の状態や各行事の報告、利用者の状況等について報告し、出席者より意見・質問等を聞き、サービスの向上に活かすようにしている。防災について議題を出し、意見を頂いている。	年6回開催し、防災訓練結果やホーム目標(個別外出支援)を議題とするなど様々な報告をしている。また、利用者を交えたお茶会交流で出席者と親睦を図っている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市役所へは日頃から何かあれば連絡を取り、担当者に相談する等して、協力関係を築くようにしている。運営推進会議等への参加もお願いしており、市主催の連絡会にも参加している。	問い合わせや相談事など日頃から電話等で市と相互に連絡を取り合っている。また、市主催の同業の連絡会に参加しており、情報交換を行なっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束や言葉による拘束を行わないように、ミーティングや会議での話し合いをし、研修を行っている。	法人で年に1回身体拘束について研修を行なっている。法人内の拘束防止の委員会に参加しており、学んだことなどホームの勉強会として情報共有している。リビングや居室の窓は開放されており、居室から庭先へ自由に出入りできる環境である。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	法人全体で高齢者虐待防止に努めており、研修等への参加で理解を深めていけるように努力している。また、利用者の言葉・態度等から職員がストレス等に気付けるように注意している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修やミーティング等で理解を深めるように努めているが、全ての職員が理解するまでは至っていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用契約時には書面や口頭で利用者・家族への説明を行い、質問等にも応じている。また、ケアの中での利用者の相談・苦情等に関してもその都度職員間で話し合い対応している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議の中で家族や市役所等の職員と話をする機会を設けている。全職員が家族の面会時や電話での連絡時に意見を聞いたり、利用者からの意見を聞いたりして、その内容を運営へと反映させている。	家族訪問時には管理者を中心に対応情報の把握に努めている。また毎月1回は必ず家族へ電話をし意見の収集を行なっている。外出支援など家族と相談しながら進めている。	家族が利用者の普段の生活を知るための情報の発信方法について、ホームで話し合うことに期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日常的に職員の意見を直接聞くなどしたり、面談の機会を作るようにしている。各職員に対して管理者・施設長・理事長と話ができる機会を設け、相談・面談等を行っている。	毎月の全体会議は予め職員から議題を募り、全職員の参加を基本に意見交換をしている。毎日のミーティングや毎月の個人面談等職員の意見を聞き取る場は多い。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務評定やアンケートを取ったり、毎月施設の目標を立て達成できているか確認したりして、各自が自分の仕事に対して見直し考える機会を持ってもらい、各職員が職場環境の改善に努めるようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修に参加したり、内部研修を行ったりして、研修の機会を設けるようにしている。又、日々の業務内でもその都度介護技術・知識等の習得を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修に参加したり、同業者の施設を見学に行ったりして、交流を図り意見交換している。ただ頻繁には行っていない状況である。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	声掛け・傾聴を頻繁に行い、不安な気持ちになる事がないように努力している。また、不安な気持ちや心配事がある場合は、職員が個別に話をする・傾聴する機会を作り、不安感の解消等を行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所契約の際に家族の意見や要望等について耳を傾けている。入所後も家族の面会や電話の際に、利用者の状況について説明し、意見や要望を聞き、家族の意見を取り入れる様にしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者が必要とする支援を本人や家族等の面談等の中で見極め、居宅ケアマネジャーや施設長・相談員等と相談・連携を図り、対応するように努力している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の意思を尊重しつつ、料理や洗濯等の家事を利用者に行って頂けるようにしている。また、草花や野菜等の世話・手入れ等についても、利用者により方を聞いて一緒に行うなどしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族が面会される際には、職員が声を掛けて利用者の状況等を伝え、相談する機会を設けている。家族への電話連絡等の際にも、同様に利用者の状況等を伝え、必要時来所して頂けるようお願いしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	市主催の敬老会や福祉祭り等に参加したり、交流の場へと外出に行かれたりして、関係が途切れない様に支援している。	編み物や習慣だった草むしりに精を出す利用者がいる。地域の馴染みの神社へ初詣に出掛けたり、敬老会で知人と交流をしている。法人の別施設へ喫茶をしに出かける利用者もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係には過剰に職員が介入しないようにしつつ、孤立することもないように職員が対応している。また、利用者同士の間でトラブルにならない様に職員が間に入って対応するようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も必要に応じて相談に乗るようにしている。また、入院先にお見舞いに行ったり、他施設に面会に行ったりしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の言葉や表情・態度等から、利用者の希望や意向を把握し支援へとつなげている。利用者が話を聞いてほしい時は職員が話を聞き、把握した内容をミーティング等で話し合い、介護に活かすようにしている。	業務に追われることなくゆったりと利用者とお話できるように努め思いを汲み取るようにしている。掴んだ情報はホーム指定の書式「ケース記録」に記録している。	現在勉強会は行っていないが、思いを汲み取るための記録の書き方等、職員を個別で指導している。今後に期待したい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前・後に、利用者・家族・ケアマネジャー等に生活歴・今までのサービス利用状況・生活環境等について確認し、把握するように努めている。不明な点があればその都度確認するようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日時系列でケース記録を記録することで、毎日の過ごし方、利用者の心身状態等を記録し、記録物を活用することで現状の把握を行っている。必要であれば、個別の記録用紙を作成して把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎日のケース記録で利用者の日々の細かい状況等を把握し、ミーティング・カンファレンスを行っている。利用者・家族にもそれぞれ意見を聞きながら、介護計画を作成している。	利用者、家族の意見を確認し、ケース記録を検討し介護計画を3ヶ月毎に見直している。介護計画の目標をケース記録に明示し、計画を意識した支援となるよう工夫している。	家族の意見がさらに反映されるようにサービス担当者会議などを利用して家族の意向をじっくり聞き取る機会を作ることを望む。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	各職員が個別のケース記録でその都度特記事項や気付いたこと、共有した方がいいこと等を記録し、ミーティング等で話し合ったりして、その情報をもとに介護計画の見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	近隣に同一法人に施設があり、利用者の状態に応じて、看護師や管理栄養士に相談・助言を受けるなどしている。家族の相談を受け、必要であれば特養等への申し込みを特養等の相談員に持ちかける等している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	毎月絵手紙や傾聴ボランティア等が来所されており、外出や夏祭り等の行事の際も家族・ボランティアが同行等している。小・中学生や踊りの会等が慰問に来るなどしたり、一緒に行事に参加したりしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所時にかかりつけ医の希望は家族に確認しているが、要望は当施設の協力医療機関が多い。かかりつけ医とは月2回の往診時以外でも、その都度連絡を取りながら適切な医療を受けられるように支援している。	利用者、家族の希望を確認のうえ、現在は協力医である系列の病院がかかりつけ医となっている。他科受診は家族同行とし、必要に応じ職員同行で医師に状況説明を行なっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職場の看護師に利用者の状態を報告し、その都度相談・助言を受けている。また近隣の同一法人の施設の看護師にも相談・助言を受けられるように関係を築いている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	協力医療機関とは日頃から利用者の状態について往診等を通じて情報交換・相談を行っており、関係が築けている。また、他の病院への入院の際もケースワーカー等と随時連絡を取り関係作りに努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化・終末期に関しては法人内で検討を進めているが、体制は完全には整っていない。見取りに関しても、家族の要望があり、その都度利用者の体調・状態について利用者や家族・近隣施設職員・協力医療機関と相談・協力しながら支援している。	重度化や終末期、看取りの指針について入居時に家族へ説明をしている。家族の希望に沿えるよう医師、家族、ホームと話し合いを行ない、可能な限りホームでの暮らしを継続できるよう努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	内部研修でそれぞれの状況に応じた応急処置について学んでいる。地域の消防署の職員にAED研修を行って頂くなど、全職員に対して研修を行うようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	日中・夜間を想定した避難訓練を定期的に行い、地域の消防署立会いの下、総合防災訓練・消火訓練等の防災訓練を行ったり、非常時の食事についても準備しており、利用者にも体験してもらうなどしている。	年2回規定通り消防訓練を行っており、1回は消防署が立会っている。管理者が法人の防災委員でありホームの対策に活かしている。市の避難所に登録し地域貢献も視野に入れている。	避難時に地域住民の協力は不可欠である。今後の取組みに期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者本位の介護になるように、利用者それぞれの人格・意思等を尊重するように声掛け・対応するようにしている。利用者のペース・プライバシーを尊重し職員主導にならないように気を付けている。	職員は常に気持ちを整え笑顔、丁寧を心がけ接するよう努めている。また利用者の安心できる呼び名で声掛けをしている。居室のネームプレートの表示は利用者、家族の意向を尊重しプライバシーに配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	出来る限り利用者の思いや希望をくみ取り、日々自己決定できるように支援している。日々の業務の中で得られた利用者の意思等については、職員同士ミーティング等で共有するようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者・家族の希望があれば時間の変更・希望の内容をその日の業務に組み込む等、利用者一人ひとりのペースに合わせ、希望に沿うように支援している。職員からお願いする際も本人に確認するようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	出来るだけ本人に服を選んでもらうように声掛けしたり、会話をしながら職員と一緒に選んでいただいたり、本人の希望に沿うように支援している。理美容時希望があれば、カラーやパーマ等も依頼するようにしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備・片付け等、利用者と一緒にを行うように支援している。メニューを伝えたり、音楽を流したり、昼食時は利用者と職員が会話をしながら一緒に食事をしたりして、食事を楽しんでもらえるように支援している。	配達業者のメニュー付の食材と、地域の商店で調達した米、調味料等で食事を提供している。嗜好を把握し、苦手なものなどは個別に変更している。イベントとして注文スタイルの天ぷら食事会を楽しんだ。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食利用者の食事摂取量を確認し、食事量・水分量が少ない利用者には、個別にチェック表に記録し声掛け等を行うようにしている。食堂や居室にコップや水筒を置き、希望時水分が摂取できるようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	各利用者に状態に合わせ、毎食後口腔ケアの声掛け・支援を行っている。義歯を使用している利用者に対しては、毎食時義歯の着用の確認をするようにし、夕食後は義歯洗浄剤を使用して頂くように支援している。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	各利用者に対して排泄チェック表を作成し、排泄間隔・状態等について確認するようにしている。排泄の失敗をされる利用者に対しては、個別に詳しいチェック表を作成し、定時でトイレ誘導等の支援を行っている。	排泄記録から状況を把握したり、仕草や表情から適切なタイミングで声掛け、誘導を行なっている。基本はトイレでの排泄だが、状況に合わせてポータブルトイレの使用など快適な排泄となるよう支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	主食を7分つきにし、野菜等の食物繊維を多く含む食べ物を食べていただいたり、腹部マッサージをしたり、体操したり等して出来るだけ薬に頼らないように支援している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴は夕方～夜にかけては職員の人数上出来ないが、基本的に日中は入浴希望があれば入浴してもらえるように支援している。また、その利用者の希望・状態に合わせて、歩浴・座浴を選択して頂いている。	週2、3回、身体の状態を見極め普通浴と機械浴の設備を設け利用している。入浴中は職員と会話を楽しんでいる。長風呂が好きな利用者には様子を見つつゆったり楽しめるよう配慮している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝時間に関しては特に決めておらず、各利用者の習慣に合わせている。日中に関しても利用者のペースや体調に応じて、居室で休まれたり、居間で過ごされたりしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	往診時に主治医に確認し、薬の本・インターネット等でも確認し副作用等に注意している。服薬支援についても必ず利用者の名前を呼び、薬を確認した後、一人ずつ利用者に薬を手渡すようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者の意思を尊重し役割を持ってもらい、それぞれの生活に張り合いや喜びがあるように支援している。作品作りや散歩など利用者が好きな事をしていただいたり、嗜好品を家族に依頼し持ってきて頂く等している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	花見や遠足、喫茶店やあま市主催の敬老会等に外出できるように支援している。外出の際は家族と一緒に参加して頂けるように声を掛け、参加して頂いている。利用者の希望される外食に出かけたり、散歩・買い物と一緒にいく等の支援をしている。	個別の外出支援に取組み、寿司屋へ出掛けた。日常的に敷地内の中庭散歩や近隣への散歩で幼稚園児と交流している。花見の遠足には家族が参加してる。	個別支援として外出を増やす取組みを行なっている。継続して行うことを望む。



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者の希望・状態に合わせ、自分で財布を管理していただいたり、お金を使ったりして頂いている。金銭管理が難しい利用者に対しては、職員と一緒にお金を使用する等している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば電話や手紙の支援を行うようにしており、家族からの電話に出て直接希望を伝えたり、最近の状態等を話されたりしている。携帯電話を持ち、入所前と同じように家族と連絡を取っている利用者もいる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間に利用者の作品や行事の写真を飾ったり、日々・季節のニュース等を貼ったりしている。各季節に合わせた飾り付けを利用者と一緒にを行うように支援し、利用者が不快に思う刺激がないように心がけ、照明・室温・湿度調整等を行っている。	中庭を囲んだりビングは明るく、人の行き来が自由な開放的な空間となっている。本を読んだり編み物をしたり、プランターに水やりをしたりと職員が手伝いながら利用者は好きなことを行なっている。掃除は利用者と一緒にやっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用部分の食堂と居間にテーブル・椅子があり、それぞれ気の合った利用者同士でそれぞれの場所で楽しく会話をする・作品を作る等している。希望があれば、利用者同士の居室で会話を楽しんで頂いている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	以前使っていた家具や写真を持ち込まれたり、居室に絨毯をひかれたり、本人・家族と相談しながら、本人の使いやすいように配置等を行っている。また、居室の表札も利用者と一緒に作成する等している。	部屋で電子ピアノを弾いて歌って過ごす利用者がいる。テレビやラジオを持ち込んだり、家族写真を飾っている。健康雑誌が置かれた居室もあり、家族等と話し合いながらその人らしい居室づくりを行なっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	共同トイレ内に張り紙をしたり、居室に表札を付けたりして、利用者が分かりやすいように工夫している。		

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	2397600012		
法人名	社会福祉法人 嘉祥福祉会		
事業所名	グループホーム第二あま恵寿荘 (ふじ)		
所在地	愛知県あま市二ツ寺三本松82番地		
自己評価作成日	平成26年10月 4日	評価結果市町村受理日	平成27年 2月 6日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kai.gokensaku.jp/23/index.php?action=kouhvu_detail_2014_022_kani=true&amp;JkyosyoCd=2397600012-00&amp;PrefCd=23&amp;VersionCd=022">http://www.kai.gokensaku.jp/23/index.php?action=kouhvu_detail_2014_022_kani=true&amp;JkyosyoCd=2397600012-00&amp;PrefCd=23&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	株式会社 中部評価センター		
所在地	愛知県名古屋市長区左京山104番地 加福ビル左京山1F		
訪問調査日	平成26年10月22日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

ユニット『ふじ』:毎日レクリエーションや体操・リハビリ・口腔体操等を行っている。利用者に合わせて、編み物やジグソーパズル・計算・塗り絵・作品を作る等している。地域のボランティアに毎月来て頂き、一緒にゲームや話をしたり、絵手紙をしたり等している。近隣の小学校との交流も継続して行っており、慰問に来られたり、花等を贈呈して頂いたり等している。花見や地域の敬老会等に外出したり、利用者と一緒におやつを作ったり、近隣の同一法人施設で合同で開催される誕生日会や夏祭り・家族会等の行事にも参加している。利用者の主体性を尊重し、利用者に合わせて役割を持ってもらい、料理や掃除・洗濯等を行って頂けるように声掛け・支援を行い、利用者や家族の関係がよりよくなるように支援している。利用者・家族・職員の間でも良い関係が築けていると思っている。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

--

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	利用者の意思を尊重し、地域の中で普通の生活を送って頂けるように支援するという目標に向けて、各利用者に向けた援助方法を各職員が考え、皆で相談しながら、実践するように努力している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議や広報等で地域の行事等の情報を得て参加するようにしている。市主催の敬老会・福祉祭りに参加し、利用者が作った作品を展示したりしている。ボランティアや近隣小学校との交流を進めている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議で市役所や地域包括支援センターの職員、民生児童委員、ボランティア、家族等と連携がとれるように話し合い等を行い、施設行事等への参加を呼び掛け、参加して頂いている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、日頃の利用者の状態や各行事の報告、利用者の状況等について報告し、出席者より意見・質問等を聞き、サービスの向上に活かすようにしている。防災について議題を出し、意見を頂いている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市役所へは日頃から何かあれば連絡を取り、担当者に相談する等して、協力関係を築くようにしている。運営推進会議等への参加もお願いしており、市主催の連絡会にも参加している。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束や言葉による拘束を行わないように、ミーティングや会議での話し合いをし、研修を行っている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人全体で高齢者虐待防止に努めており、研修等への参加で理解を深めていけるように努力している。また、利用者の言葉・態度等から職員がストレス等に気付けるように注意している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修やミーティング等で理解を深めるように努めているが、全ての職員が理解するまでは至っていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用契約時には書面や口頭で利用者・家族への説明を行い、質問等にも応じている。また、ケアの中での利用者の相談・苦情等に関してもその都度職員間で話し合い対応している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議の中で家族や市役所等の職員と話をする機会を設けている。全職員が家族の面会時や電話での連絡時に意見を聞いたり、利用者からの意見を聞いたりして、その内容を運営へと反映させている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日常的に職員の意見を直接聞くなどしたり、面談の機会を作るようにしている。各職員に対して管理者・施設長・理事長と話ができる機会を設け、相談・面談等を行っている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務評定やアンケートを取ったり、毎月施設の目標を立て達成できているか確認したりして、各自が自分の仕事に対して見直し考える機会を持ってもらい、各職員が職場環境の改善に努めるようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修に参加したり、内部研修を行ったりして、研修の機会を設けるようにしている。又、日々の業務内でもその都度介護技術・知識等の習得を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修に参加したり、同業者の施設を見学に行ったりして、交流を図り意見交換している。ただ頻繁には行っていない状況である。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	声掛け・傾聴を頻繁に行い、不安な気持ちになる事がないように努力している。また、不安な気持ちや心配事がある場合は、職員が個別に話をする・傾聴する機会を作り、不安感の解消等を行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所契約の際に家族の意見や要望等について耳を傾けている。入所後も家族の面会や電話の際に、利用者の状況について説明し、意見や要望を聞き、家族の意見を取り入れる様にしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者が必要とする支援を本人や家族等々の面談等の中で見極め、居宅ケアマネジャーや施設長・相談員等と相談・連携を図り、対応するように努力している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の意思を尊重しつつ、料理や洗濯等の家事を利用者に行って頂けるようにしている。また、草花や野菜等の世話・手入れ等についても、利用者により方を聞いて一緒に行うなどしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族が面会される際には、職員が声を掛けて利用者の状況等を伝え、相談する機会を設けている。家族への電話連絡等の際にも、同様に利用者の状況等を伝え、必要時来所して頂けるようお願いしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	市主催の敬老会や福祉祭り等に参加したり、交流の場へと外出に行かれたりして、関係が途切れない様に支援している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係には過剰に職員が介入しないようにしつつ、孤立することもないように職員が対応している。また、利用者同士の間でトラブルにならない様に職員が間に入って対応するようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も必要に応じて相談に乗るようにしている。また、入院先にお見舞いに行ったり、他施設に面会に行ったりしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の言葉や表情・態度等から、利用者の希望や意向を把握し支援へとつなげている。利用者が話を聞いてほしい時は職員が話を聞き、把握した内容をミーティング等で話し合い、介護に活かすようにしている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前・後に、利用者・家族・ケアマネジャー等に生活歴・今までのサービス利用状態・生活環境等について確認し、把握するように努めている。不明な点があればその都度確認するようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日時系列でケース記録を記録することで、毎日の過ごし方、利用者の心身状態等を記録し、記録物を活用することで現状の把握を行っている。必要であれば、個別の記録用紙を作成して把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎日のケース記録で利用者の日々の細かい状況等を把握し、ミーティング・カンファレンスを行っている。利用者・家族にもそれぞれ意見を聞きながら、介護計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	各職員が個別のケース記録でその都度特記事項や気付いたこと、共有した方がいいこと等を記録し、ミーティング等で話し合ったりして、その情報をもとに介護計画の見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	近隣に同一法人に施設があり、利用者の状態に応じて、看護師や管理栄養士に相談・助言を受けるなどしている。家族の相談を受け、必要であれば特養等への申し込みを特養等の相談員に持ちかける等している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	毎月絵手紙や傾聴ボランティア等が来所されており、外出や夏祭り等の行事の際も家族・ボランティアが同行等している。小・中学生や踊りの会等が慰問に来るなどしたり、一緒に行事に参加したりしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所時にかかりつけ医の希望は家族に確認しているが、要望は当施設の協力医療機関が多い。かかりつけ医とは月2回の往診時以外でも、その都度連絡を取りながら適切な医療を受けられるように支援している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職場の看護師に利用者の状態を報告し、その都度相談・助言を受けている。また近隣の同一法人の施設の看護師にも相談・助言を受けられるように関係を築いている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	協力医療機関とは日頃から利用者の状態について往診等を通じて情報交換・相談を行っており、関係が築けている。また、他の病院への入院の際もケースワーカー等と随時連絡を取り関係作りに努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化・終末期に関しては法人内で検討を進めているが、体制は完全には整っていない。見取りに関しても、家族の要望があり、その都度利用者の体調・状態について利用者や家族・近隣施設職員・協力医療機関と相談・協力しながら支援している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	内部研修でそれぞれの状況に応じた応急処置について学んでいる。地域の消防署の職員にAED研修を行って頂くなど、全職員に対して研修を行うようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	日中・夜間を想定した避難訓練を定期的に行い、地域の消防署立会いの下、総合防災訓練・消火訓練等の防災訓練を行ったり、非常時の食事についても準備しており、利用者にも体験してもらっている。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者本位の介護になるように、利用者それぞれの人格・意思等を尊重するように声掛け・対応するようにしている。利用者のペース・プライバシーを尊重し職員主導にならないように気を付けている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	出来る限り利用者の思いや希望をくみ取り、日々自己決定できるように支援している。日々の業務の中で得られた利用者の意思等については、職員同士ミーティング等で共有するようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者・家族の希望があれば時間の変更・希望の内容をその日の業務に組み込む等、利用者一人ひとりのペースに合わせ、希望に沿うように支援している。職員からお願いする際も本人に確認するようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	出来るだけ本人に服を選んでもらうように声掛けしたり、会話をしながら職員と一緒に選んでいただいたり、本人の希望に沿うように支援している。理美容時希望があれば、カラーやパーマ等も依頼するようにしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備・片付け等、利用者と一緒にを行うように支援している。メニューを伝えたり、音楽を流したり、昼食時は利用者と職員が会話をしながら一緒に食事をしたりして、食事を楽しんでもらえるように支援している。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食利用者の食事摂取量を確認し、食事量・水分量が少ない利用者には、個別にチェック表に記録し声掛け等を行うようにしている。食堂や居室にコップや水筒を置き、希望時水分が摂取できるようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	各利用者に状態に合わせ、毎食後口腔ケアの声掛け・支援を行っている。義歯を使用している利用者に対しては、毎食時義歯の着用の確認をするようにし、夕食後は義歯洗浄剤を使用して頂くように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	各利用者に対して排泄チェック表を作成し、排泄間隔・状態等について確認するようにしている。排泄の失敗をされる利用者に対しては、個別に詳しいチェック表を作成し、定時でトイレ誘導等の支援を行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	主食を7分つきにし、野菜等の食物繊維を多く含む食べ物を食べていただいたり、腹部マッサージをしたり、体操したり等して出来るだけ薬に頼らないように支援している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴は夕方～夜にかけては職員の人数上出来ていないが、基本的に日中は入浴希望があれば入浴してもらえるように支援している。また、その利用者の希望・状態に合わせて、歩浴・座浴を選択して頂いている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝時間に関しては特に決めておらず、各利用者の習慣に合わせている。日中に関しても利用者のペースや体調に応じて、居室で休まれたり、居間で過ごされたりしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	往診時に主治医に確認し、薬の本・インターネット等でも確認し副作用等に注意している。服薬支援についても必ず利用者の名前を呼び、薬を確認した後、一人ずつ利用者に薬を手渡すようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者の意思を尊重し役割を持ってもらい、それぞれの生活に張り合いや喜びがあるように支援している。作品作りや散歩など利用者が好きな事をしていただいたり、嗜好品を家族に依頼し持って来て頂く等している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	花見や遠足、喫茶店やあま市主催の敬老会等に外出できるように支援している。外出の際は家族と一緒に参加して頂けるように声を掛け、参加して頂いている。利用者の希望される外出に出かけたり、散歩・買い物と一緒にいく等の支援をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者の希望・状態に合わせて、自分で財布を管理していただいたり、お金を使ったりして頂いている。金銭管理が難しい利用者に対しては、職員と一緒にお金を使用する等している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば電話や手紙の支援を行うようにしており、家族からの電話に出て直接希望を伝えたり、最近の状態等を話されたりしている。携帯電話を持ち、入所前と同じように家族と連絡を取っている利用者もいる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間に利用者の作品や行事の写真を飾ったり、日々・季節のニュース等を貼ったりしている。各季節に合わせた飾り付けを利用者と一緒にを行うように支援し、利用者が不快に思う刺激がないように心がけ、照明・室温・湿度調整等を行っている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用部分の食堂と居間にテーブル・椅子があり、それぞれ気の合った利用者同士でそれぞれの場所で楽しく会話をする・作品を作る等している。希望があれば、利用者同士の居室で会話を楽しんで頂いている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	以前使っていた家具や写真を持ち込まれたり、居室に絨毯をひかれたり、本人・家族と相談しながら、本人の使いやすいように配置等を行っている。また、居室の表札も利用者と一緒に作成する等している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	共同トイレ内に張り紙をしたり、居室に表札を付けたりして、利用者が分かりやすいように工夫している。		